

平成26年度各会計予算 に対する各会派等の

意見表明(要約)

自民党豊島区議団

平成26年度一般会計及び3特別会計、並びに一般会計補正予算に賛成の立場で意見を述べる。当初予算規模はこれまでで最大。アベノミクス効果での歳入の伸びに、財源構造の大幅な改善が相まって、財政対策を一切講じない堅実な予算となった。

本予算は、待機児童対策や防災力の向上、新庁舎、副都心の再生に重点を置いて創意・工夫をされた予算であり、「安全・安心創造都市」を着実に実現する予算として評価する。

款別の意見としては、総務費では、新庁舎移転の円滑な実行、総合窓口の万全な準備でのスタート、引き続き、防犯カメラ設置を望む町会や商店街への費用補助を望む。福祉費では、私立認可保育園誘致による定員増の目標実現、地域と連携した認知症の方々へのサポートを望む。清掃環境費・都市整備費・土木費では、現庁舎地周辺まちづくりでの地域の理解を得た取組み、東西デッキ構想での中央デッキを含めた整備の検討、造幣局跡地防災公園整備での防災力を高める機能の取入れを望む。文化商工費・教育費では、外国人向け観光案内の充実、区立中学校への入学率向上の取組みを望む。特別会計では、介護保険事業会計での「高齢者元氣あとおし事業」の普及を望む。

公明党

平成26年度一般会計予算及び3特別会計予算並びに平成26年度一般会計補正予算の可決に賛成の立場から意見開陳する。

平成26年度一般会計予算は、新庁舎の関連経費をはじめ、福祉、子育て、防災、健康対策など「安全・安心創造都市」の実現に向けたものであり、特に待機児童対策など喫緊の課題について、時機を逸することなく計上されたものと認識する。

総務費では、新庁舎の防災システムに期待する。北区との連携も視野に、災害時緊急ラジオの検討を。区民ひろばでのカラオケは福祉分野と連携を。固定式「街かど消火栓」の移動式への兼用、消防団支援を要望する。福祉費では、保育園待機児童対策、コミュニティソーシャルワーカーの活躍に期待。臨時福祉給付金等の周知徹底を。衛生費では、胃がん・子宮頸がん検査導入を評価。清掃環境費では、ゴミ収集について片づけサービス等を視野に期待。都市整備費では、住宅弱者の同居支援を。土木費では私道排水助成の拡充を望む。昨夏の集中豪雨による被害に対し、緊急対策が取られたことに感謝する。文化商工費では、現存するアトリエ村の保存を望む。教育費では、富士見台小学校のセーフスクール認証に期待する。

日本共産党

一般会計ならびに3特別会計予算に反対する。

第一の理由は区民の切実な要望に依らないからである。

税収増等による過去最大の予算規模でありながら、削減した福祉の復活はなく、認可保育園増設の具体案や、新たな特養ホーム建設計画もない。目立つのは基金への大幅積み増しである。

第二は区民負担増をまねく財政運営だからである。現庁舎地等を民間に定期借地して得る新庁舎建設の資金計画は悪化しており、「土地の価値を高める」として新ホール建設等へ莫大な税金投入をすれば財政破綻をまねく。消費税増税で景気は冷え込むのに、過去最大の予算が続くなど見通しが甘すぎる。今後は老朽化した施設改修、高齢化や子育て対応が求められる中で、池袋駅東西デッキ、LRTなど大型開発が入る余地はない。

第三は区民を追い出すまちづくりを進めているからである。多くの立ち退きを強制する特定整備路線を進め、コミュニティを破壊する再開発を繰り返そうとしている。防災を理由にすれば、何をやってもいいということではない。

保険料を大幅値上げする国民健康保険と後期高齢者医療、必要なサービスが受けられない介護保険も反対である。

自治みらい

平成26年度一般会計予算、3特別会計予算及び一般会計補正予算に、賛成の立場で、意見を述べる。

26年度予算は、スリムな行財政を堅持しながら、新しい施策にも対応した、将来を見据えた予算である。

以下個別に述べる。議会資料は電子化によるペーパーレス化の検討を。区民を第一とする新庁舎サービスの実現を。近隣区との連携を含めた総合的な防災対策の充実を。待機児童対策緊急プランは着実な推進、早期の認定こども園移行の検討を。病児保育、病後時保育の拡充を。

スプレー缶の回収は利便性の向上を。新庚申塚駐車場整備は地域の声を反映した施設整備を。豊島公会堂の貸し出しは多文化共生政策の推進を。染井吉野発祥の地記念公園内の噴水問題の早急な改修を。歯と口腔の健康に関する教育プログラムの効果的な実施を。藍染授業のさらなる充実を。竹岡健康学園閉園後の施設は、歳入につながる活用の検討、体験学習、健康教育に活かすことを要望。

基金の運用は、期間を調整し金額をまとめて運用を。

3特別会計は、新庁舎における納付案内センターを利用し、各特別会計の情報を共有して効率的な収納対策を。

みんな・無所属刷新の会

平成26年度一般会計予算ならびに3特別会計予算について、いくつか懸念される点があるが概ね良として賛成する。

今回もこれまで同様行政のスリム化・効率化、そして区民の方々の利益を主眼に、公平性も観点に加え審査に臨んだ。

以下3点懸念される点を記す。まず債務残高の増加を認める方向に転換したこと。

次に現庁舎跡地活用における新ホール整備について。100%稼働しても使用料収入でランニングコストを賄えない予想の中で、将来豊島区のお荷物的な施設となってしまうたら誰が責任を取るのか?区として東京芸術劇場をもっと活用すべき。少なくとも回収することのできない初期投資額50億円に見合うだけの具体的経済効果・メリットを区民の方々に示した上で事業化すべき。

さらに新庁舎保留床購入経費の取扱いについて。130億円余が来年度中の補正予算対応となっているが、明らかに外部に支出する金額なのだから当初予算で対応すべき。平成25年度決算の剰余金と平成26年度予算の積立金が基金に手当てされるまでは、実際に購入経費に充てる金額が工面できないために、当初予算に計上されないのであれば本末転倒である。

生活の党

区政を確実に推進するため、あえて区政のいくつかの課題を指摘する。

最初に、現庁舎跡地活用による庁舎建設資金の見通しが不透明である。跡地活用策による資金確保の確かな計画を立てることが必要。新ホールの問題点の更なる検討を進め、リスクについては、引き続き説明をすべき。

第2に、行政改革である。定員管理計画は1千800人体制を掲げているが、達成されていない。区民への約束でもあり、定数削減を進め、結果を示すべき。

第3に、民営化へ向けて、民の育成、ボランティア・セクターの進出が期待されるが、区の政策がその方向に向かっているか不透明である。堅実に事業を提供していける法人を誘致すべき。

第4に、教育について。子どもたちの生きる力・多様性を培う基盤づくりの施策が見えない。子どもたちの特徴ある能力を育てるためにも、特色ある学校づくりを成し遂げられるよう、教師と地域の人材の連携を強めるべき。

3特別会計については、事務の効率化・経費の節減、さらに窓口業務の外部委託を進め、少数精鋭の体制にすべき。

以上、今後にも更なる期待を込めて、平成26年度一般会計予算、3特別会計予算及び一般会計補正予算に賛成する。